

災害地質研究部会の活動紹介 部会員募集!



- ・災害時の情報共有～災害調査団としての現地調査
- ・自然災害伝承碑の応用地質学的調査, 地域災害の掘り起こし
- ・災害現象や防災に関する教育普及活動

研究部会への参加は**常時募中**です。申し込みは右のQRコードから。

など基礎研究からアウトリーチ活動まで幅広い活動に、経験・個性豊かな部員が協力して取り組んでいます。

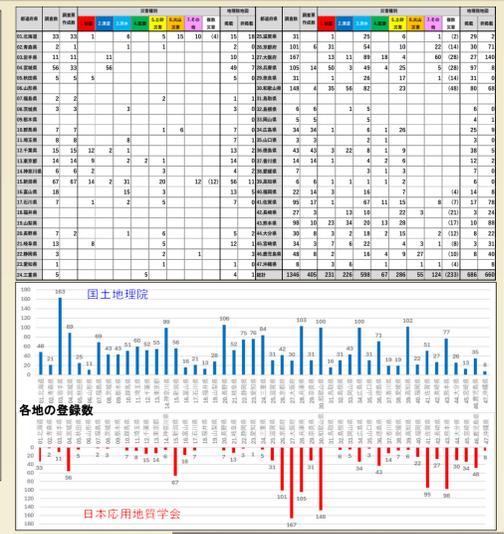
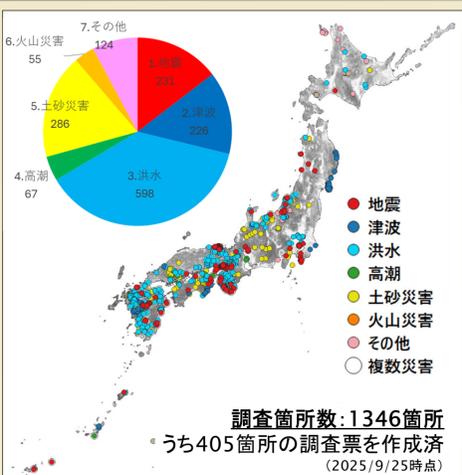
自然災害伝承碑の調査・公表

過去の災害の教訓を正しく知ることを目的として、「**自然災害伝承碑**」が2019年度に新たな地図記号として加わりました。

地理院地図に掲載された自然災害伝承碑の数は年々増えていますが、まだ未登録も多く、登録された数の何倍もの石碑などがあります。

災害地質研究部会では、それらも広く対象として、**地域災害の掘り起こし、応用地質学的観点から地域への自然災害に対する防災・減災を深めるための調査活動**を、各支部と連携して進めています。

R7年度研究発表会に先立ち、**調査結果をweb-GISとして公開**しました。PC・スマートフォンなどから、最新の調査結果をご覧いただけます。



調査事例① 土砂災害 (北海道津別町)

災害調査票 (Form No. 1: 北海道)

調査票の記入例と、津別町の土砂災害伝承碑の現地写真と位置図を示しています。

調査箇所数: 1346箇所
うち405箇所の調査票を作成済 (2025/9/25時点)

調査事例② 洪水災害 (東京都青梅市)

災害調査票 (Form No. 13: 東京都)

調査票の記入例と、青梅市の洪水災害伝承碑の現地写真と位置図を示しています。

災害調査活動

日本応用地質学会は、**大規模災害発生時に災害調査団を設置**し、応用地質学的観点からの調査・研究を推進し、被災地の復興、今後の防災・減災に貢献することを目的として、**災害調査や現地市民向けの報告会などを実施**しています。

災害地質研究部会も調査団の構成員として、**斜面災害を主とする各種地盤災害の調査、情報発信**に取り組んでいます。

右の写真はいずれも「令和6年能登半島地震災害調査団」の活動中の様子。(左下から時計回りに鹿磯漁港の海岸隆起、市ノ瀬地すべり、大久保地すべり、地震から1年後に金沢で開催した現地報告会)



調査団による調査結果情報

- ◆ 令和6年能登半島地震の土砂災害 (報告書)
- ◆ 令和6年能登半島地震で発生した斜面災害 (報告書)
- ◆ 令和6年能登半島地震調査団 調査団報告書

調査団報告書の出版に加え、**調査速報、報告会資料**を学会HPで公開しています。

調査団による調査結果情報

- ◆ 令和6年能登半島地震の土砂災害 (報告書)
- ◆ 令和6年能登半島地震で発生した斜面災害 (報告書)
- ◆ 令和6年能登半島地震調査団 調査団報告書

研究発表会特別セッション「令和6年能登半島地震災害調査団報告会」実施

教育普及活動

一般市民、被災住民向けの防災教育イベント

「能登半島地震から学ぶ地域防災」～地域防災meets専門家～

開催日時: 2025/8/27, 共催: 公立諏訪東京理科大

能登地震から地域防災学ぶ 専門家と住民が教訓共有

地域住民や自治体職員、学生、学会員など約110人が参加。WSでは地形図を囲んでリスク抽出、地域で可能な防災対策について議論。

七尾まち歩き

実施日時: 2025/8/2-3

- ・地域住民と一緒に令和6年能登半島地震による液状化・地盤沈下などの地盤変状箇所を調査。
- ・単なる発災状況の調査だけでなく、地域の歴史や土地利用との関わり、今後の防災対策について意見交換。

若手技術者向け講習

若手技術者(部会員を含む)の学習・経験のため、講習会・現地実習などを実施。

積極的な参加者がその場で参加意思を示してくれることも。

土砂災害の疑問55を用いたオンライン講習会 (書籍紹介は右)

一般市民向け防災教育書籍「土砂災害の疑問55」出版

明日、あなたの身に起こるかもしれない...

今、知っておくべき土砂災害 リスク回避のヒント

現場経験豊富な専門家23人が55の疑問に総力回答!

みんなが知りたいシリーズ⑩ 土砂災害の疑問55

災害地質研究部会編

いずれも味野氏(応用地質)撮影

若手技術者向け技術講習会 (R7.09. 箱根, 主催はフィールドの達人企画委員会)

災害現象の基礎から日頃の備えまで、部会の総力を挙げて書き下ろしました。若手技術者向け講習会も実施しており、初心者向けにオススメの一冊。

1 学会HPから会員特別価格で購入いただけます。